

令和 2 年度に実施した研究課題評価の結果について

I 中間評価について

1 評価対象

評価実施年度（R 2）に予算計上している継続研究課題。
ただし、研究開始年度及び終了年度にあるものは除く。

2 評価の目的

これまでの進捗状況や目的達成可能性、研究を取り巻く状況の変化等の観点から、引き続き研究を続けることの適否を判断するための有用な情報を提供する。

3 評価方法

(1) 内部評価委員会による評価を実施。

研究開始から奇数年度はヒアリング形式、偶数年度は書面形式により行う。

(2) 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
必要性	ニーズの状況変化 (A、B、C、D)	政策の転換や産業界・県民生活におけるニーズの変化等、研究を取り巻く状況の変化をみる。
有効性	研究開発効果 (A、B、C、D)	最終目標に到達した場合に、研究の成果が本県産業の振興や県民生活の向上に十分に貢献できるかをみる。
目標達成可能性	進捗状況 (A、B、C、D)	研究計画に従って着実に実施しているか評価時までの研究開発の進捗状況をみる。
	目標達成阻害要因の状況 (A、B、C、D)	技術水準、これまでの研究成果、他の研究主体の研究動向等より、目標達成を阻害する要因の状況をみる。
総合評価 (A、B+、B、C、D)		次年度以降引き続き実施すべきか、また実施する場合の優先度を判断する。

4 評価結果

A 評価（当初計画より大きな成果が期待できる）	1 課題
B+ 評価（当初計画より成果が期待できる）	9 課題
B 評価（当初計画どおりの成果が期待できる）	11 課題
C 評価（さらなる努力が必要である）	該当なし
D 評価（継続する意義は低い）	該当なし
合計	21 課題

5 評価結果一覧

評価基準日 令和2年4月1日

No	研究機関名	課題名	事業年度	ヒアリング 実施	ニーズ の状況 変化	効果	進捗 状況	目標達 成阻害 要因の 状況	総合評価	資料
①	総合食品研究センター	米菓製造における加工技術の開発	R1～R3		A	A	B	B	B+	資料4
②	総合食品研究センター	次世代型あめこじの開発と秋田米を活用した発酵食品への応用	R1～R3		A	A	B	A	B+	資料4
③	総合食品研究センター	蔵独自の住みつき酵母を利用した味噌などの発酵食品の開発	R1～R3		A	B	B	B	B	資料4
④	総合食品研究センター	県産原材料を活用した新規アルコール飲料の開発と高品質化	R1～R3		A	A	B	B	B+	資料4
⑤	総合食品研究センター	"Enjoy!アクティブシニアライフ!"をサポートする食の研究開発	R1～R3		A	A	B	B	B+	資料4
⑥	農業試験場	多収性品種を用いた業務・加工用米の省力安定多収生産技術の確立	H29～R3		B	B	B	B	B	資料4
⑦	農業試験場	秋田ブランドを確立する花き新品種育成	H30～R4	○	B	A	B	B	B	資料4
⑧	農業試験場	第5期次世代銘柄米品種の開発	R1～R5	○	A	A	B	B	B+	資料4
⑨	農業試験場	野菜の競争力強化を目指した新栽培技術の開発	R1～R5		B	B	B	B	B	資料4
⑩	農業試験場	先端技術を活用した新たな園芸作物病害虫防除技術の確立	R1～R5		B	B	B	B	B	資料4
⑪	農業試験場	県外からの就農者増加策ならびに雇用型経営体育成の解明	R1～R3		B	B	B	B	B	資料4
⑫	果樹試験場	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜	H28～R7	○	B	A	B	B	B	資料4
⑬	果樹試験場	県内産高品質果実の長期貯蔵による端境期出荷技術の開発	R1～R3		B	B	B	A	B	資料4
⑭	畜産試験場	牛肉におけるモモの脂肪交雑を改善する肥育技術の開発	R1～R5		A	A	B	B	B+	資料4
⑮	水産振興センター	秋田ブランドを確立する浅海生産力利用技術の開発	H29～R3		A	B	B	A	B+	資料4
⑯	水産振興センター	ハタハタの資源変動と漁場形成に関する研究	R1～R5		B	B	B	B	B	資料4
⑰	水産振興センター	湖沼河川における水産資源の安定化と活用に関する研究	R1～R5		B	B	B	B	B	資料4
⑱	林業研究研修センター	再造林における樹種選択と多機能型森林育成技術の開発	H29～R3		A	B	B	A	B+	資料4
⑲	林業研究研修センター	ニホンジカの個体数を制御するための生息環境の解明	H30～R4	○	A	A	A	A	A	資料4
⑳	林業研究研修センター	菌床シイタケのスマート栽培技術の開発	R1～R5		A	A	B	B	B+	資料4
㉑	産業技術センター	電界低粒制御技術を用いた新たな切断技術の開発	H30～R4	○	B	B	A	B	B	資料3

II 事後評価について

1 評価対象

評価実施年度の前年度（R 1）に研究期間が終了した研究課題。

2 評価の目的

最終到達目標の達成度、研究成果の効果の観点から研究結果を評価し、次期研究計画の策定等に活用する。

3 評価方法

(1) 内部評価委員会による評価を実施。

原則としてヒアリングにより実施。研究が、類似の研究課題に継続される場合は書面により実施。

(2) 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
目標達成	最終到達目標の達成度 (A、B、C)	研究計画で設定した最終到達目標の達成状況をみる。
有効性	研究成果の効果 (A、B、C、D)	研究成果の受益対象者の設定、成果の活用方法を踏まえ、研究成果の効果の評価する。
総合評価 (S、A、B、C、D)		最終到達目標の達成度、研究成果の効果から研究課題を総合的に評価する。

4 評価結果

S評価（当初見込みを上回る成果）	2 課題
A評価（当初見込みをやや上回る成果）	1 課題
B評価（当初見込みどおりの成果）	1 1 課題
C評価（当初見込みをやや下回る成果）	該当なし
D評価（当初見込みを下回る成果）	該当なし
合計	1 4 課題

5 評価結果一覧

評価基準日 令和2年4月1日

No	研究機関名	課題名	事業年度	ヒアリング 実施	目 標 達成度	効果	総合評価	資料
①	総合食品研究センター	県産農林水産素材の品質を活かすための新加工技術の開発・応用	H29～R1	○	B	A	B	資料5
②	農業試験場	野菜のオリジナル品種を核とした秋田ブランドを確立する新品種育成	H27～R1	○	B	B	B	資料5
③	農業試験場	秋田ブランド化へ向けた花き栽培技術の開発	H27～R1	○	B	B	B	資料5
④	果樹試験場	ニホンナシ「秋泉」の産地化を加速する早期成園化技術の検討	H27～R1	○	B	A	B	資料5
⑤	畜産試験場	飼料用米給与による早期若齢肥育技術の開発	H27～R1	○	B	A	B	資料3
⑥	畜産試験場	母牛初乳と人工初乳の供用給与による乳用子牛の育成技術の検討	H29～R1	○	A	A	A	資料5
⑦	水産振興センター	底魚資源の持続的利用と操業の効率化に関する技術開発	H27～R1	○	A	A	S	資料5
⑧	水産振興センター	種苗生産の低コスト化と効果を高める放流の技術開発	H27～R1	○	B	B	B	資料5
⑨	水産振興センター	内水面重要魚種の増殖効果を高める研究	H27～R1	○	B	B	B	資料5
⑩	林業研究研修センター	スギ人工林における地位級区分の高精度化に関する研究	H27～R1	○	A	A	S	資料5
⑪	産業技術センター	県内産業の高度化を図るロボティクス技術の研究開発	H28～R1	○	B	B	B	資料5
⑫	産業技術センター	再生可能エネルギーからの水素製造と高純度化に関する研究開発	H28～R1	○	B	B	B	資料5
⑬	産業技術センター	熱伝導性・耐摩耗性に優れた高機能焼結材料の開発	H29～R1	○	B	B	B	資料5
⑭	産業技術センター	セルロースナノファイバーを用いた複合材料の成形加工技術の研究開発	H29～R1	○	B	B	B	資料5

(参考)令和2年度研究課題評価内部評価委員会委員名簿

機関名	評価委員会 開催日	評価委員の所属・職名	氏 名
総合 食品研究 センター	6月4日(木)	秋田うまいもの販売課長 総合食品研究センター所長 総合食品研究センター企画管理室長	柴田 靖 大友 義一 保坂 一仁
健康環境 センター		対象課題なし	
農業 試験場	6月3日(水)	農林政策課長 水田総合利用課長 園芸振興課長 農業試験場長 農業試験場企画経営室長	安藤 鷹乙 藤村 幸司朗 本藤 昌泰 金 和裕 佐藤 孝夫
果樹 試験場	6月3日(水)	農林政策課スマート農業推進監 園芸振興課長 果樹試験場長 果樹試験場総務企画室長	齊藤 英樹 本藤 昌泰 佐藤 雄幸 上田 仁悦
畜産 試験場	6月3日(水)	農林政策課スマート農業推進監 畜産振興課長 畜産試験場長 畜産試験場総務企画室長	齊藤 英樹 畠山 英男 小坂 純治 西宮 弘
水産振興 センター	6月3日(水)	農林政策課スマート農業推進監 水産漁港課長 水産振興センター所長 水産振興センター総務企画室長	齊藤 英樹 工藤 輝喜 阿部 喜孝 水谷 寿
林業 研究研修 センター	6月3日(水)	農林政策課長 園芸振興課長 林業木材産業課長 森林整備課長 林業研究研修センター所長	安藤 鷹乙 本藤 昌泰 沼倉 直人 戸部 信彦 鈴木 光宏
産業技術 センター	5月28日(木)	地域産業振興課長 産業技術センター所長 産業技術センター上席主席研究員(兼)部長 産業技術センター上席主席研究員(兼)部長 産業技術センター電子光応用開発部長 産業技術センター先端機能素子開発部長 産業技術センター企画事業部長	羽川 彦禄 佐藤 明 鈴木 淑男 遠田 幸生 近藤 康夫 梁瀬 智 杉山 重彰